

Matsuzawa, T., & Kohsaka, R. (2022). A Systematic Review of Urban Beekeeping Regulations of Australia, the United States, and Japan: Towards Evidence-Based Policy Making. *Bee World*, 1-5.

オーストラリア、アメリカ、日本における都市養蜂規制についてのシステマティック・レビュー: エビデンスに基づく政策立案に向けて

都市養蜂は世界的に顕著になりつつあり、生物多様性保全、地域振興、農作物の受粉、蜂蜜生産、その関連製品など多様な便益をもたらしている。しかしながら、これらの便益にも関わらず、地域住民は人が刺される事故など安全上の懸念に帰せられる否定的な認識を都市養蜂に示している。さらに、在来種との競合や疾病の蔓延も懸念されている。したがって、リスクを最小限に抑えながら便益を最大にするために、都市養蜂規制に関する良いガバナンスが必要となる。今日まで、都市養蜂規制を設けた自治体や政府の数はまだ限られている。そして、現在の規制が、科学的エビデンスに基づいているかは知識・経験不足から明らかになっていない。本研究は、オーストラリア、アメリカ、日本の都市養蜂規制の国、地域における状況を分析するシステマティック・レビューから、この課題に光明を投じることを目的としている。本研究による分析は、科学に基づいた意思決定に基盤として将来的に貢献すると考えられる。分析より、都市養蜂規制は、オーストラリアでは全国的に確認され、アメリカでは米国の特定の地域に存在していることが明らかになった。一方で、都市養蜂規制は日本では確認されなかった。さらに、規制の設定は、専門家の判断や、その他の機関(非政府組織など)に依存しており、科学的エビデンスを欠いていた。このような結果は、都市養蜂のエビデンスに基づく政策立案に向けた新たな研究課題の参照点の一つになることが期待されている。